



# ハタラクヒト \*ペディア

---

<鷺塚貞長 氏>

---

田中永子

---

## はじめに

---

はじめまして、田中コーチングの田中永子と申します。

私はNLPやコーチング、ソースなどを学び、それらのノウハウや考え方を活かしたコーチングを提供しております。

この度、新しい企画といたしまして、おもに愛知県名古屋市、刈谷市を中心にお仕事をしていらっしゃる経営者の方々や企業や組織の幹部の方々へのインタビュー企画をスタートいたしました。

この企画を始めようと思った趣旨は、将来の先行きが見えづらい現代社会において、第一線でバリバリと働いていらっしゃる現役の経営者の方々、企業幹部の方々が、今何を考えているかということに興味を持ったこと。そして、その考え方に基づいてどんなアクションを起こしていらっしゃるのだらうと思ったことにあります。

また、こうした第一線でご活躍の方々のさまざまな角度からのメッセージを他の多くの実業家の方々と共有したいと思ったことも大きなモチベーションとなっています。

その他、高校生や大学生の方、これから社会に入っていこうとする方にも読みやすいように心配りをしておりますので、ぜひご愛読をいただけましたら幸いです。

個人的な考えではありますが、愛知県はモノづくりの聖地であると考えております。このモノづくりの聖地である愛知県にあって、日夜、しのぎを削っていらっしゃる多くの企業人、組織人の生の声をお届けしたいと思っております。

よって、このサイトの大きな特徴として、インタビュー形式のログをそのまま読者のみなさまにお届けするというスタイルを取っています。インタビューさせていただく私と、インタビューを受けてくださる方の真剣勝負。

行間の中に潜む間も大切なメッセージだと考えております。

第14回は、ワシヅカ獣医科病院の院長 でいらっしゃいます 鷲塚貞長 さんです。

科学的根拠に基づく、豊富な経験をベースに、  
過剰検査、過剰治療を行わない診療 を行われています。

【院長 略歴】 ホームページより

ワシヅカ獣医科病院 院長 獣医学博士

S・C・R協会会長（地域猫やノラの避妊・去勢手術、ノラ猫を増やさない活動）

(社) 日本ペンクラブ会員

名古屋和合ローター・クラブ 会員（現会長）

学校法人 NCA 名古屋コミュニケーションアート専門学校・教育顧問

(社) 名古屋市獣医師会・元会長 7期 15年

(社) 日本獣医師会・元理事

中部獣医師会連合会・元会長 2回 歴任

【著書と番組】

《専門著書》臨床免疫学・臨床内分泌学・猫の臨床（共著）

《商業出版》エディンバラのボビー（実話）、捨て猫エイバブ、小さな命、他

《芸術活動》2008年第47回日本現代工芸美術展に初出品初入選

第47回 日本現代工芸美術展 初入選 題『うねり』

第48回 日本現代工芸美術展 入選 題『省事』

第49回 日本現代工芸美術展 入選 題『細隙の光明』

第50回 日本現代工芸美術展 入選 現代工芸賞・授賞 題『詠雪』

第51回 日本現代工芸美術展 入選

第52回 日本現代工芸美術展 入選

日展 入選 2回 題『甲斐』、『輝光』

鷲塚貞長氏



「廃用性萎縮」・・・ 医学用語で、使わない組織は、萎縮し、機能を失う  
“人生にも役立つと思うよ”

趣味 : 陶芸、文筆活動、乗馬、アンティークなど  
好きな本 : 多読  
音楽 : 軽音楽  
連絡先 : 052-831-4540  
ホームページ : <http://www9.ocn.ne.jp/~bobby/>

## ◆動物医療の水準をあげよう……それが獣医師を志した動機

田中永子（以下、田中）： 今日はいろいろ幅広くお話しを伺えたらいいな、と思っています。

鷺塚貞長さん（以下敬称略、鷺塚）： うんうん。順番に聞いてって下さい。

田中： よろしくお願ひします。

鷺塚： まず、どうして獣医師を志したのかというところから？

田中： はい。

鷺塚： それはね、私は神戸の出身で。通ってた高等学校もあの辺ではかなりの進学校だったんで、自分が希望すれば、3つ4つのコースはいくらでも自信があったんだけど。

田中： すばらしい。

鷺塚： 要は子供の頃から、ずっと動物が好きでね。学校の帰りにネコ拾ってきたり、いろいろ飼ってて。

田中： はい。

鷺塚： ぼくが子供の頃の獣医さんていうのは、動物病院もそんなになくて、はっきり言って医療水準がね、決して褒められるものじゃなかったのね。連れて行っても、すぐ死んじゃったり。ワクチンもあんまりない時代だから、感染症も伝染病もいっぱいあって。

田中： はい。

鷺塚： 日本の獣医師界も、最初は『軍馬』。あれがスタートで。その前は家畜だけどね。軍馬で、ものすごく学問は進むんだけど。

田中： はい。

鷺塚： 大学出て軍隊（陸軍）に入ると、いきなり『将校』なんだよね。兵隊じゃない。『獣医総監』っていったって一番上の人は『中将』までいくし。

田中： へえ。

鷺塚： 当時、馬は大事にされて『馬政局（ばせいきょく）』という局まであったくらいで。「兵隊は一銭五厘の葉書一枚でもとれるけど、馬は高いからおまえらより大事だ」ってやられてた、そんな時代だからね（笑）

田中： （笑）

鷺塚： 人権なんて、ない時代だよな。ぼくが小学校一年の時、戦争が終わって、日本が負けたんだよね。当時、犬や猫いろいろ動物飼ってて、病気になって数少ない動物病院に行っても褒められた医療水準じゃなくて、予防注射もないし、人間の法定伝染病並みのやっかいな病気もいくつもあって、死んじゃったりするから、「こんなことでは、いかな」と。

田中： うん。

鷺塚： 動物の医療というものの水準を上げるのに、ぼくは獣医師になろうかなと。それがスタート。だから、大学もひとつしか受けなかったし。

田中： すごい。

鷺塚： 一発で入る自信あったからね。他の道で、建築技師になろうかなって思った時期も一部あったけど、建築技師は数学が断トツによくないと、技師になれても一流にはなれない。

田中： そうなんですか？

鷺塚： 計算だからね、ほとんど。ぼくは数学はそんなに得意とする分野じゃなかったんで。それで、自然科学ということで、高等学校入った時から獣医師になろうと決めてたから、一切迷わずに一校だけ選んで、そのまま大学出て研修医をしばらくやって。

田中： ええ。

鷺塚： これ録音されてるけど（笑） 大学入るなり、父親が事業にしくじっちゃって。なにもかも失っちゃって。理系の大学を自力で出るっていうのは、しんどいんだけどね。夏休みも半分くらいは実習があるしね。朝も9時半から5時過ぎまで、ビシーって講義もあるから大変だったんだけど、ぼくは自力で出て。

田中： すごい。

鷺塚： 名古屋は全く見ず知らずの土地だったんだけど、たまたま、ある人の紹介で「大学出たら、しばらく勉強に来ないか？」って誘いがあったんで、「まあ、どこでもいいや」と。

田中： （笑）

鷺塚： しばらく勉強して、最終的にはどこかしかるべく場所で開業しようかなと思ってて。名古屋は通過するだけで、「そんなところ、あるのか」っていうくらい、知識も興味もなーんもないところだったんだけど（笑）どこでもいいと思って、そのまんまなんとなく居ついちゃって。気に入ったわけでもなんでもない。

田中： （笑）

鷺塚： 今なお理解できない（笑） あなた、どこですか？ 出身は。

田中： 愛知県の刈谷市です。トヨタ系の会社が集まってる。

鷺塚： 知ってる、知ってる。あそこは、三河、尾張のどっち？

田中： 三河ですね。隣の大府市は、尾張ですけど。

鷺塚： 三河と尾張って国は、別の国だからね。

田中： みたいですね。

鷺塚： そうだよ。まあ、どうでもいいんだけどね。

田中： （笑）

鷺塚： で、開業して。あー、開業してしばらくした時に、動物を舞台にした詐欺事件があったのね。契約飼育っていう。例えば、Aさんと契約して、雌犬を飼ってもらって、『東京畜犬』にいる雄と交配して繁殖したら、「一年で投資額の倍くらいになりますよ」という。完全に詐欺だよ。

所有権は先方の会社にあるわけね。あくまでも預かるだけ。でもすぐ病気になったり、死んじゃったりするんだよね。その医療は専属の東京畜犬の社員に獣医師が担当。それが名古屋にも進出してきた。その頃ぼくは開業して何年も経ってなかったんだけど、「東京でそういうことが起きたんだ。これは性質（たち）が悪いぞ」と。

田中： うん。

鷺塚： 事実上、繁殖して投資額が倍になるなんて理論的には無理だし、こちらの開業権も脅かされる。だって所有権は会社が持ってるわけだから、ぼくらの出る幕がなくなっちゃうわけね。で、獣医師会に「こんないい加減なものを野放ししとっちゃ、だめじゃないか」って、散々意見具申したんだけど、「そんなの名古屋なんてこない」って。で、来た、間もなく。そしたら今度は「あんなん、ほっときゃ潰れる」って。そういうあんぽんたんばかりだったの。

田中： （笑）

鷺塚： こんなバカじじい共に任せておいたら話にならんわって思って、ぼくが29歳の時に選挙運動やって理事になったの。名古屋市の社団法人の獣医師界の理事に、29歳で打って出たの。「私の方がよっぽど世の中の事がわかってる」って。それで当選して、6年やったのかな。35歳で副会長になって、48歳で会長になった。15年間会長を務めたんだけど、その間に大改革をしたね。

田中： 反骨の人ですね。

鷺塚： うん。東京畜犬とはほとんどひとりで戦った。読売新聞がある時からキャンペーンやりだして、「出資預かり金法違反だ。こんなんは詐欺だ」と。名古屋は少数の味方と、東京の一部の仲間と徹底的に戦って。最後は読売新聞が潰してくれた。で、社長の野口は逮捕された。

田中： すごいですね。

鷺塚： 会社は預けた動物が死ぬと、預かり主が払った大層な契約金が無効になるから、向こうは、犬が死んだ方がいいの。セントバーナードで、当時30万。預かった犬はすぐ死んじゃう。「2頭まで（代わりを）出します」で、次が死んじゃうと預り金は没収されちゃうんだよね。ひどい話だよ。当然子供なんか生まれないし。一般の人には、「専用フードを買ってくれたら、診療代は市価の四分の一で診ます」と勧誘する。我々は自由診療だから、市価はないのに。全くのでたらめだよ。

当時のお金で90億くらいの被害があった。今の価値にすると、その20倍位かな。途中で、ある銀行の支店長に話したら「野口の資産を洗ってみます」って。調べてみたら、そいつ資産は全くないんだよ。

それから、ねずみ講事件とか、大きな不動産詐欺があったけど、資産を調べてみると代表者の個



人資産はない。なんかバーツと派手にやりだして、その代表者の資産を調べて、個人資産のない時は、絶対詐欺だからね。ぼくは若かったけど、いろいろ勉強してたから、理詰めやって、結局叩き潰したんだよね。

田中： はい。

鷺塚： ま、そういうことがあって。と同時に、やっぱり一介の開業医だけでは、今一つ物足りないんで。博士号をとろうと思って。で、名古屋大学行って、大学院に研究員で入って。そうね、3～4年でまとまったんだけど、ぼくと同期のやつが大学に残ってて、こいつがぼやぼやしてて学位がとれないもんだから（笑）

田中： （笑）

鷺塚： 「開業医に先にとられたんじゃ、かっこがつかん」、「なに言っとるだ、おれたちは仕事の傍ら論文まとめたぞ」って。結局しばらく待たされて、学位とって。38歳の時かな。

田中： 先生、お若いです。

鷺塚： もうすぐ後期高齢者だけど。

田中： えっ？ ほんとにお幾つなんですか？

鷺塚： 昭和13年生まれ。74。

田中： 全然見えない！

鷺塚： 11月27日が誕生日なんで、それがくると後期高齢者。やんなっちゃう（笑）で、博士論文だけど、博士号、それが本物か、いい加減なものかどうかははっきりわかるのはね。

田中： ええ。

鷺塚： その中で学術的に価値があるものは必ず国からね、これをくださいという要求がある。赤坂にある国立図書館、あそこにちゃんと館蔵されてる論文は本物の博士号。学生とか人を使わず、ちゃんと自分でやって、きっちり業績のある人の論文は、大学を通じて国から、論文をくださいと来る。お呼びがかからないものは眉唾だね。

田中： すごい。

鷺塚：　　そういうことで、学位に挑戦し。これ理事になった時に始めたのかな。理事やりながら、片手間に。お昼から名大通って。

田中：　　片手間でとれるもんじゃないですよ、先生（笑）

鷺塚：　　ふふふ。片手間、片手間。そういうことで、学位にとって、獣医師界の理事もやりながら、いろいろなことをして。野良犬、野良猫の避妊去勢などの公費助成とったのは、日本で名古屋が最初なんだよね。

田中：　　全国で？

鷺塚：　　そう。動物保護法が昭和50年に出来た時に、動物フェスティバルってやったのも、うちが最初。全部ぼくのアイデアでやったの。だからね、全国ですごい注目を浴びたの。それから狂犬病が諸外国で出てるっていうので、ロシアとフィリピンの両方に調査団長として行って、これは人間のお医者さんも（都立駒込病院）一緒に行ってね。狂犬病の実態調査をしてきたり。まあ、いろいろやったんだけどね。

長男も獣医師になりたいって言うんで、大学出てからこれからの時代っていうのは、ある程度英語をこなせないと情報も入ってこないし、意志の疎通も図れない。ワシントン州立大学に3年半留学させて。ぼくもその頃アメリカ動物病院のメンバーだったんで、年に1回、2回渡米して学会をいろいろまわってね。人脈も出来るし。

日本の獣医師界は、世界に少し後れをとってたんだよね。けども今ではもうトップレベルの世界。そうやってずっとやってきたんだよね。その間に『エディンバラのボビー』。これがぼくの代表作。映画にもなったんだけどね。

田中：　　すごい。

・・・・・・・・ つづく　^^

◆新聞コラム、日本ペンクラブ、日展入選.....忙しいからこそ時間を作る

鷺塚： それでまあ、いろいろと。エッセーと沢山書いて。

田中： 日本ペンクラブの方でも書いてらして。

鷺塚： 毎日新聞で1年半、毎週のコラムを担当したこともあるんだよ。そして日本ペンクラブの会員になってね。

田中： 大変ですね。

鷺塚： 週一回はきついね。月刊『名古屋』は4年間書いたね。あれは月1回だけどね。

田中： 先生が書かれたものを少し読ませていただいて。

鷺塚： どれ読まれたんですか？ あ、これは、月刊名古屋。

田中： 読みながら、泣いちゃいました。先生が飼ってらしたワンちゃんのお話で。私も今、ネコを2匹飼っていて、小さい時から、ずっと犬も一緒にいたりしたので、その別れとか、思い出してしまって。

鷺塚： それはね、我々もね、一番そこが辛いところ。ほんとわが子同然だからさ、亡くなった時悲しむんだよね。動物の寿命っていうのは、学問寿命の20年はなかなか生きられないんで。

田中： はい。

鷺塚： 3～4回の別れがあるんだよね、天寿を全うさせてもね。それはなかなか割り切れない人が多くて。ペットロスみたいになる人いるでしょ？ それは大変なんだけどね。まあ、小児科の医者みたいな仕事だね。

田中： ああ。

鷺塚： もの言わない、患者がね。お母さんと飼い主は似たような立場で。両方とも科学的じゃない、わけわからんこと言うわけ。

田中： 感情であったりとか。

鷺塚： そう、そう、そう。それをちゃんと聞いて。ひとりひとり千差万別だから、コミュニケーションがとれないといい開業医になれないよね。

田中： ですね。

鷺塚： そういった意味で、ぼくはものを書いたり、日展に出展したり。今年で2回目の入選だけどね。

田中： すごいですね。

鷺塚： ぼくはやりだしたらね、ともかく中途半端なことはやなの。日本ペンクラブだって、普通は入れないよ。商業出版がいくつかあって、ペンクラブの理事の推薦があって、理事会で決議されないと会員になれない。日展もちょっとやそっとではね。今度は、『書』の方で朝日新聞で書かれてるけど、あんなことは、5科は前からやってたことで、たいしたことじゃない（笑）

田中： どうやってお時間をつくってらっしゃるんですか？

鷺塚： それは一番よく受ける質問だけど、時間はつくる。

田中： つくる。

鷺塚： うん。つくる事と、有効に使う。だから時間が余ってる人は、何も出来ない。

田中： うん。

鷺塚： 昔から、ものを頼むんだったら、なるべく忙しい人に.....。

田中： それ、聞いたことがあります。

鷺塚： うん。忙しいって言いながら、頼まれたいくつものものを見て、そんなかで一番早く答えられないものから、やってくれる、そういう人は。文句言いながら（笑）暇な人に頼んだら.....。まあ、能力もないしね。暇だってことがおかしいんだよね。

田中： ふふふ。

鷺塚： 能力があれば、暇であるわけがない。理解できない、ぼくには。

田中： うん。先生のお話を伺っていると、集中の仕方が違う感じがするんですよ。その獣医師界を変えようと思われた時とか。

鷺塚： そう。改革ね。

田中： 改革って言った時の、力の入れ方とか。ペンクラブでご活躍される、また日展で入選するような作品を作られるっていうのは、切り替えであったり、集中力っていうものが、すごく優れていらっしゃるじゃないかって。

鷺塚： 人っていうのは、なかなか切り替えられない人が多いじゃない。

田中： はい。

鷺塚： ぼくは、ビシッと切り替える。時間があんまりないから、作ってあげないと。早朝とか、そういう時ぼやぼやしてられないでしょ？ 貴重な時間だから、集中してやろう。ある程度の勉強をして、無駄なことはしない。そうして集中して、何年かやってりゃ、余程のバカじゃない限りなんとかなるの。

田中： あははは。

鷺塚： ははは。なんとかなるの（笑）

田中： それって、昔からなんですか？ 先生の時間の使い方は。

鷺塚： やっぱり社会人になってからだね。学生の際は親父が事業にしくじっちゃったもんだから、大学を卒業するのに精いっぱい。国家試験あるしね。

田中： はい。

鷺塚： 今みたいにバイトもない時代だからね。しんどかったよ。文系だと気楽なもんだけど、理系はびっしりだからね。しかも国家試験という絶対的なものが控えてるから、落っこたら、どうしようもないよね。なんのために大学行ったのか意味なくなっちゃう。

田中： 私も歯科衛生士の専門学校行って、その後に国家試験があるんですけど、やはり、落ちられないっていうプレッシャーはかなりありました。

鷺塚： うん。やっぱり国家試験っていうのは。まあ、でも普通にやってりゃ、受かるよ。

田中： それは先生だから、そう言えるんですよ（笑）

鷺塚： 入学試験は逆だから。落とすための試験だからね。国家試験は履修してるかどうかを見るためのものだから、落ちるようじゃ、世の中出ても役に立たんよね、専門職としてね。それはしょうがないと思う。

田中： 大学に入るのがゴールって捉えてる人は、合格すると力が抜けちゃうってこともあるみたいですね。

鷺塚： 大学入ってね、それがゴールなんて、よっぽど馬鹿だね、そんなやつは。大学自体が大したこと教えてないんだから。

田中： （笑）

鷺塚： ぼくらの場合は、そんなこと言ってる余裕なんかないもん。一番のハードルは国家試験だから。そのための大学みたいなもんだよね。獣医学科出ても国家試験に受からなきゃ、何の価値もない。怠けるとか、余裕ないよ。バタバタ落第するから。

田中： 結構、容赦がないんですね。

鷺塚： 容赦ない。ぼくは初年度ね、同期は100人位だったんだけど、38人落第したよ。

田中： ええっ？ すごいですね。

鷺塚： 「ええっ？」って思ったね。びっくりした。そんなに落ちるとね。だから、1年生の時に3年先輩だった人が最上級生になった時、同級生になっちゃったのよ。

田中： ふふふふ。

鷺塚： 今でも覚えてるんだけど、「鷺塚君、同級生になりました。よろしくお願いします」、「いや、これから先輩の事は、君付けで呼びますから」、「はい、結構です」って。あははははは。

田中： 同級生に（笑）

鷺塚： 同級生になっちゃった（笑） 大学って、8年までいられるんだよね。7年生なんてのもいたしね。腹出ちゃってね、時々よそから来た人に助教授位に間違えられてる。あはははは。

田中： そっかあ（笑） やっぱり社会に出て、お仕事しようと思うと、下地が出来てないと無理ですもんね。

鷺塚： そうだよ。やっぱりね、世の中のニーズというか、人の気持ちとか、それが読めないと、専門職で通用しないんだよね。特に開業医っていうのは専門職であると同時に、ひとつの『生業（なりわい）』だよな。でしょ？

田中： はい。相手がいて。

鷺塚： そう。相手がいて、それが実に多様だったりするわけでしょ？ ぼくらは法律上はね、広告行為は禁じられてるんだ。学位、称号、専門科名以外はいけない。博士号は学位だから、いいんだけど。そうすると結局、病院の評判とか、風評、口コミだよな。

田中： はい。

鷺塚： ぼくはよく後輩に言うんだけど、「10人集まって7人の人が『あんなところはダメで』って言われたら、もうおしまい」。10人いて3人が文句言ってたとしても、概ね合格。まあ、100%認められることはないの。

田中： ええ。

鷺塚： 残りの7人が「うちも死んだけど、やるべきことはやってくれた」って言ってくれるような。経過が悪いこともある。人の医療だってパーフェクトじゃないからね。わからないこと、いっぱいあるからね。だから飼い主には不本意な結果になることもあるよね。

田中： はい。

..... つづく ^^

◆芸術でもスポーツでも、あるレベルを超えたものを目指す

鷺塚：　そこで悪口言われるか、我慢してくれるか、逆に褒めてくれるか。そこが別れ目だよ。それにはね、知識、技術だけじゃダメ。やっぱ幅広いものを持ってないと。

田中：　どういったものが必要だと？

鷺塚：　芸術でもいいし、スポーツでもなんでもいい。あるレベルを超えたものを持ってると、なんとなく説得力があるんだよ。いちいちごちゃごちゃ言わなくっても、相手から見るとなんとなく信頼感がある。

田中：　醸し出されるものがあるんですね。

鷺塚：　そうそう。言葉の端々にね。そういうものは一朝一夕には身に付かんからね。ぼくはそれを求めに獣医学以外の事をやってるんじゃないけど、今度ロータリークラブの会長やってて。この間全県83ロータリーを束ねたイベントを、もちのき広場で3日間やって、ものすごい人が来て大変なことになった。これはカンボジアへの水道を送るチャリティ。もうひとつはポリオ。今度リビアで出たよね。今世界人口の中でトイレのある所なんて、3人に1人なんだから。

田中：　3人に1人ですか？

鷺塚：　そう。3人に2人はトイレがない、そういう状況。インドはね、50%しかトイレが普及してない。小児麻痺っていうのは、排泄物でウイルスが伝搬するからね。その国でもちゃんとワクチンをやって、去年絶滅したんだけどね。ひっかかっているのはナイジェリアとアフガニスタンとパキスタンか。

アフガニスタンはね、経口ワクチンを利用して、ビンラディンがどこに潜んでいるかを探してて。ポリオの経口ワクチンをするついでに、口の中の組織を採ってDNA鑑定をして、ビンラディンの係累のやつかどうかを調べるのをやった。

田中：　そうなんですか？

鷺塚：　やったの。それがアルカイダにばれちゃって、今もアフガニスタンはポリオのワクチンをやりに行く人は、殺されちゃうんだよね。坊主憎けりゃってやつだよ。悪用されたからね。

田中：　へえ。



鷺塚： その2つにチャリティの収益金を寄付するっていうのをやったんだけどね。まあ、そういうこととか。開業医で日頃の診療だけであれば、それはそれなりに、それとなく一生が終わるんだけど。それで満足する人と、ぼくは、なんだろうね、チャンネルがいくつかあるのかもしれないね。頭の中に。

田中： チャンネルが。普通の人だと、1～2個ぐらいで、力が2分の1ずつになるんだけど。

鷺塚： わははは。2分の1はだめだよ（笑）

田中： 先生の場合は7～8個ぐらいのチャンネルがあって。まだ予備がありそう（笑）

鷺塚： はははは。

田中： なんか無尽蔵な感じで。集中力の違いなんでしょうかねえ。先生がチャンネル作ろうと思えば、エネルギーが薄くなるんじゃないくて、濃度が変わらずに同じだけのエネルギーが回る感じがします。

鷺塚： エネルギーっていうのは、チャンネルによってひとつずつ違うから。ひとりの人間のパワーが100として、チャンネルが5つあっても20にはならない。チャンネル変わったら、また100だよ。

田中： そうか（笑）すごい。

鷺塚： 何も欠けないよ。そのハンデは時間だけだよ。なんせ1日24時間しかないんだから。うまくはめ込んでね。ぼくが獣医師会長やった時とか、いろんな懸案事項がワーッとくるじゃない？

田中： うん。

鷺塚： Aは後でいい、Cを一番に持ってこなきゃいかんとか、Bを半分やって、しばらく置いてAにかかろうかってそういう仕訳は、瞬時にわかったね。パパって頭の中で仕分けが出来て、そうやっていくと片付くよ、問題なんて。

不器用な人はね、A B C Dで来ると、Aから始めて、終わらなきゃBに行かないんだよ。結構頭のいい人でも、性格なのかな？ 来た順番でしか出来ない。こういう人はあんまり大したことは出来ないね、一生の内。ひとつの事は集中すれば出来るかもしれないけど。

2つ、3つをあるレベルを超えたね、誰が聞いてもケチのつけようのないもの、その分野ではそれを超えるものがないもの。日本ペンクラブとか日展とか。それを得て行くということでもある。そういったものは、うまくはめれば、全部を100でかかれる。

田中： じゃあ、たくさんのものが、わーって来ても、パニックはないですね。

鷺塚： あー、ないない。パニックなんてのは、ない。

田中： あははは。

鷺塚： 分けりゃいい。一度に抱え込むから、落とすんじゃない。そんなもの、ありませんよ。

田中： それは、コツがあるんですか？

鷺塚： うん、なんだろね。

田中： 为什么呢？ きっとそこがみんな知りたいところだと思うんです。

鷺塚： コツ？ いろんな体験をして、なんとなく体得してくんだらうね。それと、やっぱり持って生まれたものも、かなりあるね。そんなこと言われたって、性格でひとつひとつやってかないと次に行けない……そういう人は、あんまり抱え込んじゃダメ。全部中途半端になってしまうから。

田中： うん。

鷺塚： ぼくもいろんな人見てきたけど、一芸に秀でるやつは、2つ、3つぐらいやれるね。ダメなやつは何やらせてもだめだね。

田中： 天は二物を与えずっていうけど。

鷺塚： あー、あー、五物ぐらい与えてるよね（笑）

田中： （笑）

鷺塚： ものすごい格差があるじゃない、世の中。

田中： ありますね。

鷺塚： でしょ？ いやんなっちゃうくらい、あるよねえ。なんちゅう不公平、容姿にしても経済力にしても。なにもかも揃ってる人と、全部だめな人と。運も大事だよ。

田中： おー。

鷺塚： 運も実力の内っていうけど、ほんとそうだよ。巡り合わせの悪い人は、ババばかり引いちゃうんだよな。見ててかわいそうになっちゃう。その点、ぼくなんかは、幸せな方だろうね（笑）

田中： すごいと思います。先生は良い方にいろいろチョイスされてると思うんですね。なにか、その基準みたいなものって、あるんですか？ ご自分の中で決めていらっしゃる、ルールみたいなものとか。

鷺塚： それは、やっぱり配分して、すぐ取り掛からなければならないもの、十分な調査をしなければいけないものとか。来た課題の本質を、最初に見分けることだよな。そうすれば、それに対して対応をしていけばいい。空いたところ、空いたところにはめ込んでいくだけだから。

田中： パズルみたいに。

鷺塚： そうそうそう。で、空洞を無しにしちゃう。そうすれば、苦痛でもなんでもなし、やっつくことに。

田中： じゃあ、それに向かわれてる時は、結構淡々とされてる感じですか？

鷺塚： うん。つらくもなんともないよ。その時にはそれに集中して。また変わったら、そっちに集中してやる。同時にふたつやるとかね。まあ、そんなことぐらい出来るよね。診察してて、外来がポンッと空いた時にぱぱっと原稿書くとかね。別に工房とかもあって、気分です練ったりすると、その時また別の発想が湧いたりね。あなた、お酒は飲みますか？

田中： 嗜む程度ですね。

鷺塚： ある程度、飲んだ方がいいね。なんていうか、日頃忘れていたこととか、発想がね、ふわーっと湧いてくるんだよね。頭が柔らかくなる。ぼく、内分泌が専門なんだけど。身体のコントロール機能はくっと引き締まってるのね。

田中： うん。

鷺塚： 酒飲むと、リリースする。ふわっと。そうすると「あ、こんなこと忘れてるなあ」「久しぶりにあの人に手紙でも書こうかな」とかね、いろんなことが湧いてくるんだよね。で、明くる日酒が抜けて、10浮かんだことの内、7つぐらいは実にばかばかしいことで。

田中： ふふふふ。

鷺塚： なにを馬鹿なことをみたいな（笑）3つぐらいは「お！」ってなるようなことだけ。だから、メモするの、すべて。浮かんだ時に。酒が覚めると忘れちゃうからな。7つぐらいの馬鹿なことは、捨てればいいんだから（笑）

田中： あははは。よく、「夜に手紙やラブレターは書きちゃダメ」っていいますよね。

鷺塚： あ、夜ダメなの？

田中： 心情を吐露しすぎちゃうって。翌朝、読み返して「こんなこと、書きちゃったー」みたいな（笑）

鷺塚： 恥ずかしい、みたいな（笑）

田中： 緊張と弛緩の、そのバランスがすごくいい感じですね、先生。

鷺塚： うん。バランス感覚なきゃ出来ないよ、そんないくつもの事は。

田中： ですね。

鷺塚： バランスは、あると思うよ。

田中： すごく若々しいですし。綱渡りとかも出来そう（笑）

鷺塚： わははは。そんなことは（笑）元々武道だからね、ぼくは。柔道、剣道、居合道とかね。

田中： そうなんですか。

鷺塚： 乗馬も十何年やってる。この間ちょっと愛犬の散歩中に足痛めちゃって休んでるけど。

田中： 乗馬はどちらで？

鷺塚： 愛知牧場。もう15年位行ってるね。

田中： 私も一度、体験乗馬をして。

鷺塚： あー。

田中： 馬って、いいですね。

鷺塚： いいよー。いいけど馬も相手知ってて、乗った瞬間にわかるんだね。この人は乗れるか乗れないか.....動かないでしょ、普通。叩こうが蹴飛ばそうが。

田中： 私の時は、ほんと初めてで引いてもらって。きっとおとなしい子だったんでしょうね。言葉が通じないけど、とても賢い動物だって聞きますけど。

鷺塚： 賢いけど、結構いじわるなところあるからね。落とすよ、ポーンって。

田中： こわい（笑）高いですよ。乗った時、視線の高さにびっくりしました、私。

鷺塚： 馬体っていうのは、下から肩甲骨辺りで測るの、頭じゃなくって。サラブレット辺りで、1m65ぐらいあるかな。だから結構高いよね。西部劇なんか見ると、ヒョイってまたいでるけど、あれはクォーターホースとって、ちっちゃいの、馬が。

田中： 違うんですか。

鷺塚： 馬が小さくて、俳優さんが大きいからヒョイってなるけど、日本だと、「どっこいしょ」でしょ？山登るみたいに（笑）

田中： そうなんです（笑）私の時、踏み台置いてくれました。

鷺塚： だいぶ小さいよね、向こうの馬は。

田中： 西部劇のイメージがあったんで「私、運動神経ないのかな」って。安心しました。運動神経の問題じゃないんですね（笑）

鷺塚： うん。最初、乗るの大変。「どっこいしょ」で。

田中： とても楽しかったので、「続けたいな」って思ったんですけど、遠くて。

鷺塚： あれも大変だよ。最初に行って手入れして、乗って手入れして。夏なんかシャワールームに行くと、着てた乗馬用のキュロットとか、床に落とすとドスっていうくらい汗が出る。真冬でも10分ぐらい乗ってたら汗が出てくる。すごい全身運動。見てると優雅だけど、かなり大変。騎兵隊が銃持って、サーベル持って長い時間馬乗るなんて、すごい重労働。普通の乗馬は、平均一鞍40分だけど。

田中： 全身運動なんですね。

鷺塚： 全身運動。

田中： 乗った時、「腰で座りなさい」って言われて、その姿勢を保つのが大変な感じでした。

鷺塚： 馬はバランス知ってるから、変な奴が乗ってくると、馬鹿にする。

田中： ふふふ。あの、獣医さんというお仕事をされていて、今までで大変だなんて思われたことなどを。

..... つづく ^^

◆身体が弱かった幼少頃.....柔道を始めてからが転機

鷺塚： ん？一番大きかったのは、さっきも話したけど、東京畜犬。いわゆる獣医学、繁殖を悪用した詐欺事件。大きかったからね、事件そのものが。そういうものに巻き込まれて、それに対して獣医師界がなすすべもなく無能さをさらけ出した。これはもう大変な危機感を覚えた。

田中： そこに先生の、先を見通す目みたいなものを感じるんですけど。

鷺塚： 自分の仕事だから。そんな変なのにかき回されてしまう、そんなのは許せない。見通すも、見通さないも生活権の問題。苦労して得た獣医師の資格でしょ。それを踏みにじられたら、たまったもんじゃない。徹底的に叩かないと。蹴散らせ。下郎（笑）ぼくは侍の14代目だからね。鷺塚家の。

田中： そうなんですか。

鷺塚： 源氏の流れなの。墓石に「源」って彫ってあったら源氏。ホラふいたって、お墓みりやすぐわかるよ、どういう家系か。武家の血が流れている、今なお。

田中： そんな感じがする。

鷺塚： 戦国時代に生まれたら、信長君なんかやっつけとったかもしれん（笑）

田中： ふふふ。ちょっと生まれた時代が。

鷺塚： 秀吉なんて、大嫌いだね。身の程知らん奴はね、虫唾がはしるね。家康も田舎もんだよね。

田中： さっき武道ってお話しされてましたけど、小さい頃から続けてらしたんですか？

鷺塚： いやいや。子どもの頃は身体が弱かったんだよね。風邪ばっかひいてね。40日位長欠して、我ながら情けなかった。風邪が治った頃にインフルエンザになって、また休んで。こんなに弱いんじゃ、喧嘩も強くないし。男として不甲斐ないと思って、中学3年の頃に柔道はじめてんだよね。

田中： うん。

鷺塚： そしたら、すごく丈夫になって。柔道も割に強くなったんだよね。で、高等学校を受験

して、合格発表がある前に柔道部に行ってたね、受かる事として（笑） あははは。

田中： あははは。

鷺塚： 落っこちゃってたら、恥かいちゃう（笑） 高等学校でも1年生の終わりに、対校試合の選手に選ばれたりして。剣道は社会人になってからで。

田中： ええ。

鷺塚： それはね、なんで始めたかっていうと。うちは侍の出なので刀がいくつも伝わってるのね。「日本刀って、どうやって扱うのかな？」って。それにはちゃんと刀を扱う作法を学ばないと。それは居合道なんだけど、だんだん居合道も想定に無理があって、それで剣道もやって、「両方合わせないと、ほんとのことわからないな」って。

田中： はい。

鷺塚： 常に疑問を感じるんだな、ぼくは。で、剣道もやって、居合道は師範までなって、「なるほどな」と。

田中： そこで見えるものがあるんですね。

鷺塚： 「剣と言うものは、こういうものやなあ」というものが見えてきたねえ。

田中： どんなものですか？

鷺塚： え？ どうったものって言われても困るけど（笑）

田中： 先生が見られた、道みたいなものとか。

鷺塚： まあ、結局『先の先（せんのせん）』とか『後の先』（ごのせん）』とか。『先の先』は相手が来る前に一気に行く。『後の先』は来させといてやる……とかね。そういう攻め方とか、刀というものと竹刀の違いとかね。

そういったものがいくつか見えてくると、そのバリエーションっていうのは、世の中のいろんな現象とか、起こってることと、どっか繋がってる。「こいつは、竹刀だな」、「こっちは真剣だな」、「模造刀じゃないか」とか。見りゃわかるようになってくる（笑）



田中： はい。

鷺塚： それと、男っていうはある程度、いざとなったら戦って勝てるような自信がほしいね。

田中： そうですね。肚の座ったところというか。

鷺塚： そう。実力でもね、口先だけじゃない。そうすりゃ、なんとなく肚すわってくるよ。少々のがあったって、怖くもなんともない。

田中： そうですね。昔の武士が強かったのって、最期に死ぬ覚悟があるから、そこに潔さがあるような。

鷺塚： うんうん。捨て身。ぼくは死ぬ覚悟なんかないけどね（笑）昔の人は、そうだよ、きつと。及び腰じゃ、何事もうまくいかないよね。

田中： いろんなことを同時にやったりすると、通常だと浮わつたような、動きがふわふわしちゃうことってあると思うんですけど。

鷺塚： 中途半端だね。

田中： そうそう。でも先生の感じだと、ひとつひとつに重心がいつてる感じがするんです。だから一歩踏み出す前足に、力がある様な。それが無い状態でいくと、ふわっとして風が吹くと飛ばされてしまうみたいなの。

鷺塚： それをつまみ食いっていうんだよ。やっぱり、ひとつね、目標立てたらある程度極める。それはね、言って聞かせるだけじゃなくて。うーん、集中するよね、やりだしたら。そうするうちにひとつのゴールが勝手に出てきちゃうよね。

田中： うん。

鷺塚： 設けて、それに向かって必死にもがくんじゃなくて。ぼくなんかそうだよ、いつも。陶芸も最初、父親が陶器のコレクターだったんだよね。いろんなもん見て育ってて、ある時から「こんなもんくらい自分で出来るぞ」と思って。

田中： （笑）

鷺塚： 「こんなもんか」と。興味なかった、若い頃は陶器なんか。こんなもんで大騒ぎして...

...で、ある時期からやりだして、するとだんだんかなりのものができるようになった。

田中： はい。

鷺塚： 世の中ってというのは、客観的評価がないと。無冠の人からもらったって、大事にしないでしょ。それこそ、ネコの茶碗にされちゃうよね。だから自分の作品を大事にしてもらうには、誰が聞いても「あー」っていうような客観的評価、日展とか。

田中： ええ。

鷺塚： 賞もあんまり興味がなかったけど、「とったほうがいいのかな」って言って応募して。そしたら、トントンっと入選しちゃったから。あははは。

田中： 軽くおっしゃる（笑）

鷺塚： 初めから、そんなの狙ってたわけじゃない。ぼくは大体すべてそうだね。刀をみたら、「これ、どうやって扱ったんだろう？」、「剣道と実際のチャンバラと、どう違うんだろう？」、「どこがどう活かされているんだろう？」スタートはひとつの疑問からなってるんだよ、常に。

で、やるとある程度のところまで徹底的にやっていかないと、気が済まない性格だから、短い時間を集中してやる、組み合わせで間々にやる、それが積み重なっていくとひとつの成果が、ひとりで出てくるという。ゴールというよりは、結果だね、みんな。

田中： やってきたものの、後ろについて来たもの。

鷺塚： うん。ひとりでに賞に繋がったり、資格を得たり。それはがむしゃらになって、必死になって山登りしてる感じではないね。てくてく歩いて登ってたら、いつの間にか「頂上に来てるわ」って。わははは。

田中： エベレストだ（笑）

鷺塚： ね、「もっと高い山、ないのかー？」って、感じだね（笑）「ここが一番高いの？」そんな感じだね（笑）だから苦痛でも何でもなし。苦痛ならやんないよ。やめちゃう。本職だけで充分なんだから。

田中： そうですねえ。

鷺塚： あえて、苦労する歳でもないし。リタイヤして今頃ね、半分ボケてくる歳だよ。わははは。徘徊老人。

田中： いえいえ（笑）ますます、これからって感じがします。

鷺塚： わははは。

田中： そのエネルギーってどっからくるんですか？

鷺塚： エネルギーは、好奇心だよ。

田中： 好奇心ですか？

鷺塚： 人間は好奇心を失ったら、エネルギーはなくなる。好奇心がひとりでにエネルギーを、呼ぶね。ま、ある程度、健康管理はしてるけど。

田中： うん。

鷺塚： 前は毎晩のように飲み歩いてたけど、この頃は眠たくなっちゃう（笑）

田中： ふふふふ。

鷺塚： 早寝早起きなっちゃった（笑）それはあんまり自慢にならんけど。あえて、やってんじやなくて、そんなんなっちゃった。情けない話（笑）

田中： いえいえ。先生の1日ってどんな感じなんですか？ 朝は何時に起きられるとか。

鷺塚： 朝はね、早いよ。夜も10時には寝るように。なんかたまった時は12時頃までもの書いたりいろいろしてるけど、朝は6時頃か。ぼくは十分寝ないとダメなんで。4時間睡眠とか、そんなのしてたら3日でダウンしちゃうね。もう眠たくて支離滅裂になっちゃう（笑）

田中： ふふふ。コツコツと、出来る感じですね、先生って。

鷺塚： コツコツと？

田中： うん。溜めといて、ドカッてやるんじゃなくて、時間のかかるものであれば、その山を

上手に切崩してくっていう。

鷺塚： それはタイムスケジュール作ってやってるわけじゃないけど、ひとりでに頭の中で、組み合わせみたいなのが出来てるんだろうな、きっと。その通りやっていくと、なんとなく全部がうまくいく、勝手に進んでいく、そういう感じよ。

田中： 私の友人で、大変な時でも、論文とか自分で決めたことを必ず続けていて。「毎日の積み重ねってというのが、今を作っていくんだよね」っていう話をしてくれて。

鷺塚： ただね、人それぞれに能力とか、タイプがあるから、何でもかんでも人の真似をすればいいってもんじゃない。やっぱり自分がどういうタイプで、どれくらいまでの能力があって、どういった形でそれに向かっていくのが、一番効率のいいやり方かなってくらいは、よく知っておいた方がいいよね。

わけもわからず、Aさんがうまく行ってるから、それを真似すればいいかということ、必ずしもそうじゃない。大かたはうまくいくと思うけど、参考にはなるけどね。100%そのまま自分のものってわけにはいかないね。

田中： やっぱり、そこはさっき先生がおっしゃった見極め。その人の本質的なもの、特性を見極めて。

鷺塚： そう。例えばまったく絵心がない人に「画家になれ」といったところでね。オリンピックだって、天才が努力するんであって、普通の人がいくら頑張ったってどうしようもない話だよ。努力でやれる話じゃないでしょ。

スポーツだってね、絵だって陶器だって、はじめからセンスのない人は何年修行したってね。それは自分でわかるんじゃない。でも、やってみないとわからないこともあるけど。「お、意外にやれるじゃない」みたいなのがあるかもしれないし、「予定通りダメだったな」っていうのもあるかもしれない。

田中： 先生はそういうのって、あったんですか？

鷺塚： ぼく？

田中： はい。「これは意外にOK」、「あれ、NG」みたいなもの。

鷺塚： ぼくは、NG、ないね（笑）

田中： あはは。聞いてすみません（笑）

鷺塚： いつもトップスターだと思って、やってるんだよ（笑）

田中： あー、大事ですよ、それは。

鷺塚： 大事だよ！人間は多少うぬぼれがなきゃダメだよ。あんまり表に出すといやらしくなっちゃうけど（笑）

田中： ふふふ。先生から、今の学生さんとかにエールを送るとしたら、どんなことを？

..... つづく ^^

◆物事を達成した時にこそ、幸せを感じる

鷺塚： エールなんかないね、今の若いやつに。

田中： あら（笑）、ないですか？

鷺塚： 特に若い男はダメだね。どうしてかっていうと、平和ボケ。

田中： 平和ボケ？

鷺塚： うん。日本人って、追い詰められた時に味の出る民族で。これ、ぼやっとさせたら、もう最悪。

田中： （笑）

鷺塚： 今、最悪なんです。ステータスを求めないでしょ？ 若い男。「出世なんかしなくてもいい」「なんとなくやればいい」、「結婚も面倒くさい」ね。もひとつの理由は、女が強くなり過ぎた。いや、女が強くなったんじゃなくて、生物学的に女の方がずっと強い。ね、妊娠、出産、育児、これ男がやったら3日で死ぬからね。

田中： あははは。

鷺塚： ものすごい重労働。だから山登ったって女は生き残る、男は死ぬでしょ。それと一緒に平均寿命見たって大体10年違うよね。動物もそうだよ。犬でもネコでも圧倒的にメスのが長生き。それは簡単に言うと、ストレスに対応する『副腎』っていう小さい臓器があるんだけど、メスと大きさが違う。丈夫に出来てるの。男は弱い。瞬発力はあるけど持続力はない。痛みに対しても、弱い。

それが平和な時代が長く続いちゃって。謙譲の美德もなくなってきちゃって、本音で生き出すと女の方が強い。うちのスタッフも結婚願望があってもね、これはっていう男が見つからない。ぼくから見ても思うもん、「ろくでもないやつと一緒にするのはかわいそう」って。

田中： （笑）

鷺塚： 亭主は？ しっかりしてる（笑）？

田中： あ、私の夫ですか？ しっかりしてますね。

鷺塚： それはよかったね。宝くじ当たったようなもんだね。大方、外れくじだからね。

田中： 先生は、大当たりくじですね（笑）

鷺塚： おれなんか、特等賞だよ（笑）

田中： 元々女性は強いんですよ。

鷺塚： 生物学的にも精神力も持久力も。見た目に弱く見えるだけ。ライオンでもそうじゃない。オスは昼寝して子ども作ってるだけ。だからね、若い人にぼくからのメッセージとしたら、平和ボケだからね、「こんなものが世の中だと思っちゃいかん」と。それと「いい意味でのステータスは求めて行かないと、晩年がつまらん一生になるよ」と。

だって目標がないんだから。会社に入ったって、「管理職になるよりはのんびりやった方がいい」とかね、「結婚すると奥さんの顔色ばっか見てるのはめんどくさいから、適当に彼女でつまみ食いしてたほうがいい」とかね。

男としてポテンシーが全然ないじゃない。精子の数だって、ぼくらの時代に比べると、10分の1程度。少子化っていうけど、適齢期の半分くらい結婚してないからね。結婚してる人は、子どもも結構産んでるからね、2人、3人とか。

田中： ですね。

鷺塚： だから、結婚できないか、したくないかのどっちか。そういう時代なんだよね。これは時代背景も悪いよね。だから戦争だのなんだの、生きるか死ぬかの思いをすると、家族の絆とかそういうものが表に出て、男の瞬発力も頼もしくなる。今は男の出番ないじゃん。「車なんて、いらん」とか、もう、「なにいっとるだ」って。

田中： 先生、ちなみにお車は何乗ってらっしゃるんですか？

鷺塚： ベンツとBMW。

田中： いいですね。

鷺塚： 前はジャガー乗ってた。

田中： わ。何色ですか？

鷺塚： グリーン。

田中： カッコいい！

鷺塚： カッコいいよ（笑）それこそステータスだよ。長く乗ったよ、ジャガーは。ぼくら若い頃、最初は軽自動車買って、普通車買って、だんだんグレード上げて。「いつの日か、乗りたいよな」って思うじゃん。

田中： うん。

鷺塚： そういうステップがあったよ。車に関しても、そういう段階的なものがあった。

田中： わかりやすいですね。ステータスが上がった際のシンボリックな。

鷺塚： だから、もう乗るものなくなっちゃった。

田中： ああ、ベンツまでいっちゃったら。

鷺塚： うん。もうない。後は実用的じゃないもん、いらぬ。BMW、ベンツで充分。今じゃ車は珍しいものじゃなくなったけど、ぼくらの時代は乗用車を持つこと＝ステータスだったからね。

田中： 今の先生の好奇心で、向いていらっしゃるものって、何かあるんですか？

鷺塚： 今は、ないねえ。もう充分手を広げてるから。陶芸にしても、もの書くことに関して、これこそゴールないからね。無限でしょ？うちの祖父は政治家だったから、「政界に出ろ」と若い頃からいっぱいあったんだけど、家内が政治が大嫌いで。「そんなの出るんだったら、お暇をいただきます」って言われちゃって。

田中： ふふふっ。

鷺塚： 家内と離縁してまでやることじゃないし（笑）今はならなくてよかったと思ってる。ぼくのじいさんの頃は名誉職だから、給料なんてないんだよね。むしろどんどん財産使った。政治家って、元来そういうもん。私の友人も何人かいるけど、晩年はみな哀れだったね、見てて。幸せじゃなかったね。



田中： 先生にとっての幸せって、どんなものですか？

鷺塚： 幸せ？ それは、何かものごとを達成した時。それと、開業医だから厄介な病気が治って、飼い主が喜んで。それが一番うれしいね。それが一番の喜びかもしれないね。病気って全部治せるもんじゃないからね。

田中： それが今まで仕事を続けてらした原動力なのかもしれませんね。

鷺塚： うん。仕事も、息子も獣医師だから、任せりゃいいんだけど。ぼくみたいに慌ただしい人生を送ってきた人間はね、辞めちゃうとね、あっという間に病気になるか、ボケるかで、ろくなことなく、傍に迷惑をかける。だから突っ走って、そのままポテンって逝きゃ、一番まわりにご迷惑をかけない（笑）

田中： 白洲次郎さんみたい（笑）

鷺塚： ははは。ほんとそうだよ。あまり大した仕事してない人がリタイヤしたら、割にのんびりのほほんといくんだけど、ぼくはダメだろうね。時間が出来たから他の事に集中ってまず出来ない。忙しいから、他のことが出来る。

田中： うん。

鷺塚： 本職が忙しいから、陶器に集中したり、合間合間にもものを書いてもどンドンアイデアも湧くけど、これが朝から晩までぼやーっとしたら。私の友人で、ある上場企業の社長やってたのが、社長を引退したら、風邪ばっかひくんだよね。

田中： ええ。

鷺塚： 今までだって風邪ひくけど、少々の事だったら会社で役員会議とかやって丁々発止で、いつの間にか治っちゃってた。うちでのほほんとしてたらなかなか治らない。「これはいかんわ」って自分でまた小さい会社作って。そしたらまた元気になったって（笑）

そういうもんだ。ま、人によりけりだろうけど。ぼくは、それはひとつの真理だと思うな。ぼくみたいなタイプの人間は暇になったら、おしまい。それこそ腹上死しようと、何しようと勇ましく、男らしく。わはははは。

田中： ふふふ。あの、ここは載せてもだいじょうぶですか（笑）？

鷺塚： 載せたらだめだよ。カッ Tucker カット (笑)

田中： (笑)

鷺塚： また聞きたいことがあったら、メールでもください。

田中： はい。どうもありがとうございます。あと、もう少しよろしいですか？

鷺塚： うん。うん。

..... つづく ^^

こちら、好奇心でかきだした質問表です^^

鷺塚さんにもインタビュー後、おつきあいいただきました。

まずはどうぞ、みなさんもたのしんでくださいませ★★

### <いろいろ質問表>

- ・月並みですが、小さい頃はどんなこどもでしたか
- ・好きな本を一冊選んでください
- ・いつも必ずする「習慣」はありますか
- ・ねこ派ですか？いぬ派ですか
- ・今までで一番大変だと感じた出来事（環境）はどんなこと（時）でしたか
- ・それのどの部分が大変だと感じたのでしょうか
- ・それをどうやって乗り越えたんですか
- ・その時、大切にしていたことは何ですか
- ・今頭の中にうかんでいる人はだれですか
- ・その人は、何か言っていますか
- ・3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか
- ・人と会う時、つきあう時、その人のどんなところをみていますか
- ・人として、これは譲れないっしょ??っていうのがあったら、何ですか
- ・RPGでパーティを組むとしたら、どんなキャラクターを選びますか
- ・因みにそのなかで、あなたの役割（キャラ）はなんですか
- ・それはどんな冒険になるのでしょうか
- ・「攻め」と「守り」自分はどちらだと思いますか
- ・全く何の制約もないとしたら、何をしますか
- ・聞くとムカッってくる言葉ってありますか
- ・どんな時にイラッとしますか
- ・落ち込んだ時、どうやってリセットしていますか
- ・何をしている時が一番たのしいと感じますか
- ・今一番欲しいものは何ですか
- ・あなたの萌えポイントをおしえて下さい
- ・今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい
- ・そこで何に気付きましたか
- ・今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか
- ・今死んでも悔いはありませんか
- ・身体もお金も制限のない状態で、寿命が後一か月だとしたら、何をしますか

- ・世界に向けて演説をするとしたら、何を一番伝えたいですか
- ・生まれ変わったら、男と女、どちらがいいですか
- ・人間以外のものに生まれ変われるとしたら、なにがいいですか
- ・朝起きたら、雨が降っていました、どんなことを思いますか
- ・世界で何かひとつ完全に消滅させられるとしたら、なにを消し去りますか
- ・自分の性格を象徴するようなエピソードがあったら、おしえてください
- ・自分のキャラを一言でいうなら
- ・今一番大切に思っている事（もの）って、なんですか
- ・今日のこの時間で、なにか気付いたことはあったらおしえてください
- ・一年後、どんな自分にいるでしょうか
- ・最後に何か一言お願いします ^^

..... つづ

きは鷺塚さんのおこたえデス ^^

田中：好きな本を一冊選んでください

鷺塚：本？特にないよ。なんでも読むよ。でも、村上春樹は嫌いだよ。

田中：そうなんですか（笑）？

鷺塚：何冊か読んだけど、おもしろくない。

田中：お嫌いなものは明確な感じですね（笑）ここにある本とか、いろんな項目のものがたくさんありますね。置物まであって。

鷺塚：これは唐の時代の。本物だよ。出土品。

田中：へええ。あの、並んでいる物を拝見していると、先生は、同じだけの集中力でこれらの項目に向かわれてるんだらうなあって感じがします。

3つ願いが叶うとしたら、何を願いますか？

鷺塚：3つ願い？今から？（笑）

田中：ふふふ。はい。

鷺塚：お金もいらんな。あー、20代の体力だね。

田中：え、でも十分お元気そう。

鷺塚：いや、もっともっと。あとは……もう達成したなあ。20代の体力と健康ぐらいだな。あとは全部あります。

田中：はい。

人と会う時、つきあう時、その人のどんなところを見えていますか？

鷺塚：これは総論的に？

田中：いろんな場面があると思うんですけど。仕事、プライベートとか。人として見た時に。

鷺塚： 人として、どういうところを見ているか？ 嫌いな奴とは、つきあわないよね。ストレス以外のないものでもない。やっぱり人柄だよ。大事なのは。

田中： うん。

鷺塚： 容姿。女の子は絶対的に容姿だね。

田中： そうなんですか（笑）？

鷺塚： 容姿。一に容姿、二に容姿（笑）

田中： あははは。あの、性格は？

鷺塚： 性格も、大事。

田中： 大事ですよ。なんか安心しました（笑）

鷺塚： やさしい。それとあんまり馬鹿は困るね。アホらしくなって、つきあえなくなる。やっぱり、才能がある人がいいね。なんか一芸に秀でてるとするのは、女の人でもいいなって思う。

田中： 先生、結構理想が高いです（笑）

鷺塚： 高いよー（笑）一に容姿あり。おへちゃはきれい。

田中： すみません。私（笑）

鷺塚： いやいや、そんなことない（笑）

田中： 先生は、ほんと色々な方と会っていらっしゃると思うんですが。

鷺塚： うん。ロータリーなんか異業種だからね。いろんな人の集まりだから。

田中： そういった中で、挨拶するだけの関係から一歩踏み出したつきあいになる、「連絡しようかな」って思える人って、どんな感じの人ですか？

鷺塚： あー。それはひとりでに生まれるんだと思う。友人として、「連絡しよう。メールしよう」っていうのは、相手に何かあるんだろうね。何かがある。きれいだとかね。

田中： うーん。

鷺塚： それはあえて基準とかというより。ぼくは多くの人と会って話す機会が多いから、その中で、心に残るまでいかないにしても、自分の中の記憶に残ったり、何かの時に顔や名前が浮かんでくるのは、その中から自然に生まれることで、意図的にどうこうということではない。

田中： はい。

鷺塚： フィーリングであったり、意見が合う、相手が自分にはないものを持ってることもあるし、専門職なら、当然その知識を借りなきゃいけない時もあるしね。だから、ぼくは実に多様な友達がいるよ。その中で、ある程度本音で話せる人じゃないと。

田中： ええ。

鷺塚： 名古屋の人は何考えてるのか、わかんないところあるからね。

田中： 聞いたことがあります。

鷺塚： ここはミステリアスな地域。名古屋人じゃないと理解できないことがいくつもあるね。

田中： はい。私の知り合いで県外の方なんですけど、その方も仕事でこちらにいらした時に、「どうしても踏み込めない部分がある」っておっしゃってました。

鷺塚： それは一時的じゃなくて、長く居ても、どうしてもわからんところがあるね。深層心理的に名古屋の人じゃないとわからない部分があるんだよね。それにみんな悩むんだよね。

田中： あー。

鷺塚： 県外から住み着いた人は。「頷いていたけど、同意してなかった」とかね。男だったら「意見が違うんだったら、どうしてそこで言わないの？」って。頷いたら納得というのが一般的な解釈。それが必ずしも通用しないんだよね。いちいち構えてつきあうのもヤダからね。本音でつきあいたいよね。いい悪いじゃなくて、それは困る。戸惑う。

田中： ですね。

先生は、「攻め」と「守り」自分はどちらだと思えますか？

鷲塚： 攻めと守り？ 攻めだわね。

田中： 攻めですねー。伺ってて、攻めだなんて感じがしますもん（笑）

鷲塚： 攻めてりゃ勝手に守られるんじゃないかな。

田中： はい。先生は、一騎当千な感じがします。

鷲塚： そんなことはないよ（笑） 攻撃は最大の防御なりでね。あえて攻撃するわけじゃないけど、ポジティブシンキングだよ。禅宗の言葉でね、「昨日と言う日は過ぎ去った。明日は来るか来ないかわからない。人生はその時その時」これは、ぼくの座右の銘みたいなもんだね。

田中： はい。

鷲塚： だから済んじゃったことをごちゃごちゃ言ったって元に戻らないし。明日の事を悩んでみたって来ないかもしれないし、なんないかもしれない。それより今を生きてる。今を有意義に、無駄なく。あわない巡り合わせが来たって、しょうがないよね。いい事ばかりじゃない、人生は。

田中： そういうふうお考えになったきっかけとか、あるんですか？

鷲塚： うーん。ぼくは、仏教も宗教も信仰どころか信用もしてないけど。御釈迦さんの教えも守られてないし、今と全然違うよ、仏教も。民族と宗教は災いの元。それで殺し合いしてる、今なおね。禅宗だろうとなんだらうと関係ない。その言葉が自分にとっていいかどうか。有用だなと思えば出仕はどこでもいい。

なんでも「神が」っていうの、嫌いだね。そういう人は無責任なんだよ。なんでも神さまのせいにしちゃってね。信仰はしないけど、その教えの中でね、いいとこどりというか、共感した部分だけ。「昨日と言う日は過ぎ去った。明日は来るか来ないかわからない。人生はその時、その時」にしたって、無責任に生きるってことではない。そういう意味ではない。その時その時を大事にして、くだらんことに振りまわされないようにすれば、気持ちも自然に明るくなるし、ことからも成就していくから、いいんじゃないかな。

．．．．． つづく ^^





田中： ですね。  
何をしている時が一番楽しいと感じますか？

鷺塚： ふふふ。またそんな（笑）

田中： ふふふ。

鷺塚： なんだろね（笑） おいしいもの食べてる時かな。美人と会ってる時。お酒もいいよね、楽しいよね。

田中： そうですねー。

鷺塚： ぼく、もの書くのが好きだから、書いている時は楽しい。よく文章を書くのが苦痛だという人いるけど、意味がわからない。楽しくってしょうがない、書いていると。陶器もいいし。馬は爽快感があるし、実に気分がいい。全部いい。楽しいことだらけ。

田中： 人間には五感があるけど、先生はそのすべてを喜ばせてる感じがしますね。

鷺塚： はははは。第六感もあるよ（笑）

田中： ふふふ。  
今の自分を突き動かしているものは、何だと思いますか？

鷺塚： 考えたことない、そんなこと。

田中： 結構、自動操縦で動いてる感じですね。

鷺塚： そうだね。特に考えず、ひとりで動いてる。

田中： 今の自分に大きな影響を与えたと思える出来事を、2つ語って下さい。

鷺塚： 何もないね……あえて言うならば、大学入るなり親父が事業にしくじったこと。

田中： それは、大きいです。

鷺塚： それまで女中が何人もいて、上女中頭までいた家だからね。それが突如として。戦争で何もかも失ったと同時に突き放された。これはね、大きな出来事だねえ、最大の。それひとつだ

ろうね。

田中： はい。

鷺塚： だけど、ぼくは、結果的にいうと、よかったと思ってる。それで相当鍛えられたんじゃないかって（笑）そのまま、のほほんっと行ってたよりは。あそこで、ほんと辛酸を舐めて。あれはあれで、のちの長い人生を考えると、ぼくにとっては、よかった。まことに衝撃的だけど。

田中： はい。

鷺塚： 「一度帰って来てくれ」って言われて帰って。気難しい親父だったけど、ぼくの顔見て泣いて。「しゃあないよ」って。「ぼくがなんとかするから」って。大学辞める気はさらさらないんで「親父、途中でなんか病気になって死んじゃうかもしれないけど、先立つかもしれないけど、それは責任持てんよ。やるどころまで、やるからね」って（笑）

それでまた別れて東京帰ったんだけどね。でも悲壮感は全然なかったね。やってやるよと思って、歯あ食いしばって、泣きべそ掻きながら帰ったんじゃない。親父の方がもうへろへろになってたね。申し訳ないって思ったんだんろうね。まあ、頑固でわけわからん親父だったけど、初めて素直なところ、ぼくに見せたね。わはははは。

田中： ふふふ。

鷺塚： ははは。親父にこんなところあったんだと思った。お袋はとってもいい人で、優しくてね。かわいそうでね。お袋見て「よし、おれが一旗揚げてね、お袋はちゃんとしてあげないと」と。親父は、自分がしくじって不徳の致す処だと思ったけどね、お袋は……。

田中： はい。

鷺塚： だから十分親孝行したよ。ふたりとも。さいわいね、ぼくは獣医師という職業に向いたんだね。だから開業してから、わっと一挙に流行医になったからさ。経済的にもそこそこだったからさ。両親もそれまでの一時期の生活からは一気に戻して。その辺に関しては、なんら思い残すことはないね。

田中： さっき先生が、「日本人は、追い詰められた時に味が出る民族」っておっしゃってたけど。

鷺塚： そう！それがずっと今ないから、クラゲみたいな人間ばかりになっちゃうんだよ。や

っぱり追い詰められて辛酸をなめた時に、本当の味の出る民族で。そんな中からリーダーになれる人間が、出て来るんだろうね。

田中： うん。

鷺塚： こんなことしてたら。小ずるい悪賢いやつばかりしか、政治にしても経済界にしてもね。東京電力だってそうなんだよ。あれもかつてはね幹部候補生で、将来の役員候補の連中でもみんな腰にベルト巻いてペンチ持って電柱登らせたっていうもん。そして何年か工夫と一緒に苦労させて、その後エリートとして教育する。

今はどうというのが重役、社長になるかっていうとね、政治屋とか霞が関とうまくつきあえるやつ。利権を誘導するやつばかりが出世するんだわ。だからあんなふざけた会社になっちゃう。それは一般の企業にも言えることなんで。だから現場体験っていうのかな、それをさせずに、ペーパーテストだけいいのを採用してたら、絶対おかしくなる。現場体験やって、ほんとのことを知ってた上で、リーダーになって行くと、それはいいリーダーになるよね。

今、大企業で、これはって言われてる人はみんな戦争を体験してる。しかも自分より優秀な奴が戦死しちゃったりして、「おれの人生はあの時終わったってたんで、生き残れた分、日本を再建しよう」そういう気持ちが今の日本を築いた。

でも、今の国会議員はそんなものないじゃん。生まれたときからね、昔『三種の神器』と言われてたものが全部揃ってて、ほんわかほんわかといい給料もらって。そんな時代ないよ、日本史の中で。

だから、それをどうやって、本当の日本人の味を出すような状況をつくりだすのか。それが問題。最大のテーマだね。教育でもなんでもないよ。社会機構の問題だね。本当の日本人の味が出るようなバックグラウンドをどうやってつくるのか.....それはまだぼくにも答えはない。でも、それはつくらないかんって思ってる。そうしないと、ほんとにダメになっちゃう、日本が。このままじゃね。それは最大の悩み。やっぱり日本人として生まれて、変な国にはなってほしくないよね。

田中： たしかに。

鷺塚： だいぶ変な国になっちゃてるけどね。

田中： 先日もいろいろお話していて、その人も日本の行く末を心配してらして。今まで日本って、なんとか瀬戸際になった時が何回かあったような気がするんですけど、大政奉還や、戦争

に負けた時とか。そういった時には必ず転機となる人が出てきたりするから。

鷺塚： 人物が出てくるよね。でも、そうじゃない時に、人物が出て来たためしがないんだよ。

田中： そうなんです。

鷺塚： ない。でも今、世界的にはね、特に隣のふたつはね、わけわからん国だから。TPPだってそう。アメリカのいいようにもってかれちゃってる。それを、四つに組めるだけの人間がないの、今。

田中： 課題ですね。今日はどうもありがとうございました！

最後までお読みいただきましてありがとうございました。

今回、あなたの心の内側では、どのような気づきがありましたか。

少しでもみなさまのお役に立てましたら幸いです。

さて、私にはこのインタビュー記事の電子書籍出版のほかに、

『コーチング』 という専門職の顔も持っています。

実は、今お読みになられたインタビューそのものも、このコーチングの考え方に則って行っています。

コーチングとは、人材開発のための手法のひとつで、

おもに対話によって相手の自己実現や目標達成を図る体系的な技術のことです。

相手の話を聴き、感じたことを伝えて承認し、相手に適切な質問をすることで、

クライアントの自発的な行動を促していくことができます。

日本にはいくつかのコーチングスクールがあります。私はCTIというコーチングスクール

でCPCC（Certified Professional Co-Active Coach）という国際資格を取得しています。現在、日本では約550人のコーチがCPCCの資格を取得し、世界中では6,900人のコーチがこの資格を持って活躍しています。（2014年6月現在）

また、『人間の脳の取り扱い説明書』とも称される実践心理学 『NLP（神経言語プログラム）』 も学び、

米国NLP協会認定トレーナーアソシエイトの国際資格も取得しています。

このNLPとコーチングはとても親和性が高く、相互に相乗効果を発揮して、クライアント様の変化変容、

目標実現に大きく寄与していると評価を頂戴しています。

その他、ソースワークショップトレーナーの資格も取得しており、クライアント様に

「本当に生き甲斐のある人生とは何か」 を見定めていただくためのサポートもさせていただいております。

しばらく新規クライアント様の募集は諸事情によりおやすみをさせていただいておりましたが、このたび、また新規クライアント様の募集を再開させていただくことになりました。

もし、少しでもご興味やご関心がおありでしたら、無料体験コーチングを受講なさってみませんか。

今なら1回60分のコーチングセッションを無料でお受けしております。

これまでも、たくさんの経営者様、事業家様、サラリーマンの方、もちろん主婦の方々までコーチングをさせていただきました。柔軟なアプローチと揺るぎない信頼関係。これが私のコーチングのスタイルです。

あなたの目標達成はもちろん、日常生活でのメンタル調整に、思考や判断の整理に、コーチングやNLPは素晴らしい効果を発揮します。私にあなたのサポートをさせていただけるのであれば、これに優る喜びはありません。あなたからのお問い合わせを心からお待ちしています。

無料コーチングセッション、その他のお問い合わせはお気軽にこちらから。

< [ace-support@samba.ocn.ne.jp](mailto:ace-support@samba.ocn.ne.jp) >

最後までお読みいただきましてまことにありがとうございました。

ハタラクヒトペディア電子出版

記者兼編集長 田中永子

ハタラクヒト\*ペディア 14 <鷲塚貞長氏>

<http://p.booklog.jp/book/81809>

著者：田中永子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/24riko/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/81809>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/81809>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ